

Title	国内の雑誌等に発表されたスペイン語学に関する文献（その1）
Author(s)	出口，厚実
Citation	大阪外国語大学論集. 1 p.119-p.143
Issue Date	1990-01-25
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79459
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

国内の雑誌等に発表されたスペイン語学に関する文献 (その1)

出 口 厚 実

Ensayo de una bibliografía de los estudios lingüísticos sobre el español
publicados en Japón desde 1952 hasta 1988

Atsumi DEGUCHI

Es un hecho, aunque sea poco conocido fuera de los especialistas interesados, que en las últimas décadas ha aparecido en este país un importante número de trabajos sobre la lingüística española en sus diversos aspectos. Sin embargo no existe hasta el momento ninguna obra bibliográfica dedicada a esta disciplina. La presente lista es un ensayo que intenta llenar en parte dicha laguna para que sirva de punto de partida hacia una bibliografía más completa y de mayor alcance.

Hemos reunido y incluido en la medida de lo posible todos los estudios relacionados al tema que hayan sido publicados en las revistas o publicaciones durante el período entre 1952 y 1988, excepto aquellos realizados con finalidad de material de la enseñanza. Esto significa que nos abstenemos de aplicar pautas selectivas al determinar si se debe dar acogida o no a un estudio particular.

El contenido, 757 títulos en total, se clasifica en las catorce secciones abajo especificadas, algunas de las cuales se dividen en ramos menores. El criterio seguido para establecer las categorías no es estricto sino práctico y provisional en vista de facilitar la consulta. Cada entrada está compuesta de numeración, autor, año publicado, título, nombre de la publicación, número o volumen y las páginas.

Esta bibliografía también proporciona al final de la lista Índices A (de autores) y B (de temas, palabras, países).

Clasificación del contenido

1. Teoría/metodología
2. Fonética/fonología
3. Morfología
4. Sintaxis/semántica
 - a . nombre/determinante
 - b . pronombre
 - c . preposición
 - d . sujeto/orden de las palabras
 - e . reflexivo
 - f . modo
 - g . tiempo/aspecto
 - h . verbo
 - i . otros
5. Lexicografía
6. Estadística
7. Historia
 - a . fonología
 - b . morfología
 - c . sintaxis/semántica
 - d . lexicografía y otros
8. Dialectología
9. Variación social
10. Estudios contrastivos
 - a . lenguas románicas
 - b . japonés
 - c . inglés y otros
11. Enseñanza
 - a . generales
 - b . didáctica
12. Miscelánea
13. Traducción
14. Bibliografía

序

わが国におけるスペイン語学に関する研究が、近年、着実に増加してきていることは大変喜ばしいことである。日本のスペイン語研究者の活動は今後も一層盛んになり、内外の機関紙等に発表される成果は増大し、その対象分野もますます多岐に及ぶだろうと予想される。しかし、残念ながら

ら、これらの文献情報を一覧できるデータベースが存在しなかった。単行本として出版されるものは数が少ない上に、大学・研究機関の図書カードや既存の検索システムで探し出すことが容易である。また海外の学術雑誌などに掲載された論文は、いくつかの書誌情報が定期的に報告される他、総合的な目録も利用可能であるので、これらを頼りに調べられる。ところが、量的に最大の部分を占める、国内の雑誌・紀要・論集、etc. に含まれるスペイン語学の資料をまとめて検索する手段がなく、不便を感じていた。

このような空白を埋めようとする目的でリストの作成を思い立ったのが1988年の夏であった。未発表の試行版⁽¹⁾を手がかりに、翌年3月によりやく暫定版の目録⁽²⁾が完成し、このコピーとフロッピーディスクを、関西及び東京スペイン語学研究会の関係者を中心に配布して、資料の訂正・追加について協力を仰いだ。1989年の7月にも再度、修正原稿⁽³⁾のチェックをこれらの方々をお願いした。寄せられた資料と、編者自身のその後の再校正と増補を合わせて出来上がったのが以下の文献目録である。

目録の内容と構成

本目録は、1952年から1988年までに日本国内で刊行された雑誌・紀要・論集・研究報告等に所載の、スペイン言語語学に関する論文・研究ノート・解説・翻訳・文献目録を対象とし、合計757点の書誌データを収めている。

1つのデータ毎に、整理番号、著者名、(発表年)、「題名」、掲載誌名、巻号、所載ページ、がこの順序で与えられている。

資料を調べる場合、テーマによる探索が最も利用度が高いと考えられるので、内容分類を主軸として、下記の14カテゴリーと、若干の下位区分を設けた。適当な大きさにグルーピングすることを優先した便宜的な分類法なので、多くの研究成果が集中する分野は細分化され、逆に文献が疎らな領域は粗いという不均衡がある。

分類項目一覧

1. 文法論
2. 音声・音韻
3. 形態
4. 統語・意味
 - a) 限定詞・名詞
 - b) 代名詞
 - c) 前置詞
 - d) 主語・語順

- e) 再帰文
- f) 叙法
- g) 時制・相
- h) 動詞
- i) その他
- 5. 語彙
- 6. 計量・統計
- 7. 歴史
 - a) 音韻
 - b) 形態
 - c) 統語・意味
 - d) 語彙・その他
- 8. 地域変異
 - a) 半島・全般
 - b) 中南米
 - c) その他
- 9. 社会変異・言語接触
- 10. 対照
 - a) ロマンズ語
 - b) 日本語
 - c) 英語・その他
- 11. 教育
 - a) 概論
 - b) 教授法
- 12. その他
- 13. 翻訳
- 14. 書誌・文献目録

各文献データは最も適切と思われる分類項目の下に1度だけ記載される。同一の(下位)項目内では各データは発表年の昇順に、同じ年号では著者名のA-Z順に配列した。

欧文のタイトルは記事が欧文で書かれていることを示すが、その場合でも日本人の著者名は邦文で表記してある。インデックス上で同一人に統一する便を考慮したからである。

末尾に2つの索引を付した。著者名索引は、50音-アルファベット順に配列され、著者名毎に該当するデータ番号を列挙した。事項索引では分野分類名以外で主題要素となり得るものをタイトル

中の語から選び、これを索引語として、文献番号を引き出せるように編成した。

註

- 1) 拙稿暫定版[ver. 0.99/1989.3.2]の土台となったのは、大阪外大イスパニア語学科生広野知永子君が1984年度卒業論文として提出したリスト(文献数410点)と、それに基づいて増補を加えてワープロ文書化した、同大学Ⅱ部卒業生(1987年)の山岸千佐子君の作成した目録(記載点数560)である。これらには、カタロニア語・ガリシア語に関する資料の1部が含まれていたが、暫定版や本目録では削除されている。また、教材、数行足らずの口頭発表要旨、1ページに満たない囲み記事、ごく短い雑談的記事などで、今回の収録の対象から外したものがある。
- 2) 出口厚実「日本の逐次刊行物等に発表されたスペイン語学に関する文献(1948-1988)」ver. 0.99/1989.3.2
- 3) 出口厚実「わが国の雑誌等に発表されたスペイン語学に関する文献(1952-1988)」ver. 1.0/1989.7.20, 同 ver. 1.1/1989.7.25

* 暫定版 ver. 0.99/1.0/1.1 の編纂過程で多くの方々から様々な御協力を頂いた。特に上田博人、江沢照美、堀田英夫各氏は多くの追加データと訂正箇所を御教示下さった。この場を借りてすべての関係諸氏にお礼を申し上げます。

国内の雑誌等に発表されたスペイン語学に関する文献

(1952-1988)

[その1]

1989.9.10 出 口 厚 実

*1 文法論、

- 1 原 誠 (1959)「新言語学の問題点」一耕文9, p. 65-94
- 2 島岡 茂 (1959/60)「リョラックの文法論」一HISPANICA 4/5, p. 31-37
- 3 原 誠 (1976)「言語学における構造主義」一ロマンス語研究10, p. 22-39
- 4 原 誠 (1977)「スペイン語文法論試案」一一橋論叢77(3), p. 261-278
- 5 原 誠 (1978)「スペイン語文法論における創出的意味部門の中核としての‘運動’の分析-1」一アジア・アフリカ言語文化研究16, p. 134-145
- 6 原 誠 (1979)「スペイン語文法論における創出的意味部門の中核としての‘運動’の分析-2」一東京外国語大学論集29, p. 113-123
- 7 原 誠 (1979)「スペイン語文法論における創出的意味部門の中核としての‘運動’の分析-3」一HISPANICA 23, p. 14-30
- 8 原 誠 (1980)「スペイン語文法論における創出的意味部門の中核としての‘運動’の分析-4」一東京外国語大学創立80周年記念論文集, p. 43-69
- 9 原 誠 (1980)「スペイン語文法論における創出的意味部門の中核としての‘運動’の分析-

- 5」—HISPANICA 24, p. 1-18
- 10 原 誠（1981）「スペイン語文法論における創出的意味部門の中核としての‘運動’の分析—6」—アジア・アフリカ文法研究10, p. 47-67
- 11 原 誠（1982）「スペイン語の‘運動’が形成する意味の『場』について」—HISPANICA 26, p. 17-30
- 12 原 誠（1982）「スペイン語創出文法理論の実際の適用（その2）」—アジア・アフリカ文法研究11, p. 45-65
- 13 原 誠（1982）「意味について（上）」—東京外国語大学論集32, p. 49-69
- 14 原 誠（1983）「スペイン語創出文法理論の実際の適用（その3）」—スペイン語学研究1, p. 39-60
- 15 原 誠（1983）「スペイン語創出文法理論の実際の適用（その4）」—HISPANICA 27, p. 37-53
- 16 原 誠（1983）「スペイン語創出文法理論の実際の適用（その5）」—アジア・アフリカ文法研究12, p. 53-74
- 17 原 誠（1983）「意味について（下）」—東京外国語大学論集33, p. 13-32
- 18 原 誠（1984）「スペイン語創出文法理論が究極的に目指すもの」—アジア・アフリカ文法研究13, p. 15-30
- 19 原 誠（1984）「スペイン語創出文法理論の実際の適用（その1）」—金田一春彦博士古稀記念論文集（2）言語学編, p. 231-260
- 20 原 誠（1984）「スペイン語創出文法理論の文意味部門に格はいくつあるか？」—HISPANICA 28, p. 49-65
- 21 原 誠（1984）「言語の体系性と非体系性について（上）」—東京外国語大学論集34, p. 29-49
- 22 原 誠（1985）「スペイン語創出文法理論による、いわゆる‘小文’の文法的処理について」—アジア・アフリカ文法研究14, p. 41-56
- 23 原 誠（1985）「メタ言語讃」—HISPANICA 29, p. 1-16
- 24 原 誠（1985）「言語の体系性と非体系性について（下）」—東京外国語大学論集35, p. 27-46
- 25 原 誠（1986）「創出的意味部門の中核としての‘運動’の形成する場」—アジア・アフリカ文法研究15, p. 181-210
- 26 石崎優子（1986）「ヨーロッパ構造主義におけるスペイン語文法—統語・意味論の二項対立」—SOPHIA LINGUISTICA 20/21, p. 243-250
- 27 原 誠（1987）「スペイン語創出文法理論における‘第一次および第二次運動修飾要素’と‘文意味修飾要素’とに関する考察」—アジア・アフリカ文法研究16, p. 249-262

*2 音声・音韻

- 28 近松洋男 (1959/60)「イスパニア語重母音 -ue, -ie について」—HISPANICA 4/5, p. 1-9
- 29 原 誠 (1961)「スペイン語音素論(1)一言語について」—耕文10, p. 39-52
- 30 原 誠 (1961)「スペイン語音素論(2)―(その1)への注」—耕文11, p. 11-23
- 31 原 誠 (1961)「スペイン語音素論(3)」—スペイン図書 5, p. 12-27
- 32 近松洋男 (1962)「イスパニア語の有声化された子音」—HISPANICA 7, p. 1-13
- 33 原 誠 (1962)「スペイン語音素論(4) スペイン語に y, w を認めることの当否について」—東京外国語大学論集 9, p. 47-68
- 34 近松洋男 (1963)「イスパニア語の起半母音現象(重母音 -ie, -ue 及び yod)」—HISPANICA 8, p. 1-15
- 35 原 誠 (1966)「スペイン語音素論(5) スペイン語のいわゆる半母音の音素論的解釈についての再考」—一橋論叢56, p. 154-174
- 36 原 誠 (1966)「スペイン語音素論(7) 中和批判」—東京外国語大学論集13, p. 37-76
- 37 原 誠 (1967)「スペイン語音素論(8) スペイン語に内部解放連接は存在するか?」—東京外国語大学論集15, p. 101-130
- 38 上野政夫 (1967)「イスパニア語のイントネーション」—北九州大学外国語学部紀要14, p. 83-95
- 39 園田守男 (1968)「イスパニア語のイントネーション」—長崎県立国際経済大学論集 2(3), p. 60-81
- 40 原 誠 (1968)「スペイン語音素論(9) スペイン語発話の音声学的一大特徴について」—一橋論叢59, p. 50-67
- 41 三好準之助 (1969)「スペイン語母音の音色に関する一音響学的考察」—京都産業大学紀要第1輯 FL 系列「外国語と文化」1, p. 108-139
- 42 三好準之助 (1969)「スペイン語母音に関する音響学的考察(2)」—HISPANICA 14, p. 1-19
- 43 出口厚実 (1972)「『西語らしさ』の音声的側面について」—Estudios Hispánicos 2, p. 34-49
- 44 秋山紀一 (1974)「スペイン語における音節の問題点」—HISPANICA 18, p. 37-50
- 45 伊藤太吾 (1974)「イスパニア語の音節構造と分綴法」—大阪外国語大学学報30, p. 41-59
- 46 原 誠 (1975)「スペイン語のレイラミエントの音声的実体」—一橋論叢, p. 197-214
- 47 秋山紀一 (1977)「スペイン語における音節の問題点(2) 音節構造と音節境界」—駒沢大学外国語学部論集 6, p. 121-136
- 48 出口厚実 (1977)「スペイン語の強勢位置に関して」—大阪外国語大学学報39, p. 199-213
- 49 高垣敏博 (1977)「スペイン語の語頭添加母音 e- について」—HISPANICA 21, p. 17-31
- 50 今津藤一 (1978)「スペイン語の二重母音—比較音声学の立場から」—富山大学教育学部紀要

- 26（文科系）， p. 69-75
- 51 Benavides, Juan Miguel（1979）Notas sobre la pronunciación del español —語学研究18, p. 23-29
- 52 出口厚実（1980）「多価的素性でみたスペイン語の音韻プロセス」—HISPANICA 24, p. 33-51
- 53 高垣敏博（1980）A Note on Rhythmic Nature of Spanish —Lingüística Hispánica 3, p. 141-155
- 54 高垣敏博（1980）「Pulgram の音節理論」—外国語・外国文学研究 4, p. 15-28
- 55 當作靖彦（1980）ASSERTION IN SPANISH —音声言語の研究 1, p. 95-135
- 56 出口厚実（1981）「多価的素性で見たスペイン語の音韻プロセス」—ロマンス語研究13/14, p. 86-96
- 57 高垣敏博（1981）「自然生成音韻論における音節 —スペイン語を中心に」—京都産業大学論集 10(3), p. 150-174
- 58 阿部三男（1982）「スペイン語における子音群の単純化について」—宮城昇教授還暦記念論文集, p. 1-20
- 59 小泉晶子（1982）「スペイン語における第二強勢の有無について」—宮城昇教授還暦記念論文集, p. 175-190
- 60 酒井優子（1983）「スペイン語洗礼名の子音の繰返しを伴う省略について」—スペイン語学研究 1, p. 61-78
- 61 酒井優子（1983）「スペイン語洗礼名の省略に見られる音の省略と子音の変化」—文京女子短期大学英语英文科紀要16, p. 145-157
- 62 阿部三男（1984）「スペイン語における音節末の s の気音化・消失に関する通時的・共時的研究」—東海大学紀要教養学部15, p. 123-140
- 63 阿部三男（1984）「スペイン語の音節末・語末における —s の気音化・消失について」—HISPANICA 28, p. 12-31.
- 64 森本栄晴（1984）Una observación sobre el acento y la intensidad dentro de la lingüística española —hacia una definición científica de estos términos —横浜商科大学論集17(1/2), p. 170-179
- 65 酒井優子（1985）「洗礼名の省略に見られる子音の変化とスペイン語における子音の頻度」—HISPANICA 29, p. 31-49
- 66 伊藤太吾（1986）¿Todavía es válida la teoría de las áreas laterales de Matteo Bartoli? —Lingüística Hispánica 9, p. 47-58
- 67 原 誠（1987）「スペイン語子音体系内への音素 w の位置付け」—スペイン語学研究 2, p. 1-21
- 68 川上茂信（1987）「スペイン語は強さアクセントの言語か」—言語・文化研究 5, p. 59-66
- 69 木村琢也（1987）「スペインのスペイン語における音節末子音連続(その1)」—言語・文化研究

5, p. 11-18

- 70 堀田英夫 (1988) 「スペイン語発音表記」—愛知県立大学外国語学部紀要言語・文学編20, p. 155-176
- 71 川上茂信 (1988) Nota sobre 'Jóse' —スペイン語学研究 3, p. 35-47
- 72 木村琢也 (1988) 「スペインのスペイン語における音節末子音連続(その2)」—言語・文化研究 6, p. 53-59

*3 形態

- 73 出口厚実 (1969) 「イスパニア語不活動体名詞における語尾 -a/-o の対立と意味」—大阪外国語大学学報21, p. 77-94
- 74 出口厚実 (1971) 「スペイン語動詞屈折語尾の構造」—大阪外国語大学学報23, p. 35-60
- 75 出口厚実 (1974) 「スペイン語における複数形成について」—大阪外国語大学学報30, p. 1-14
- 76 出口厚実 (1974) 「スペイン語動詞 paradigma の形態音韻論的側面」—HISPANICA 18, p. 51-68
- 77 Wilkinson, Hugh E. (1977) Notes on Spanish -ió<-eu and the Weak Preterite Ending —青山学院大学一般教養部会論集 3, p. 21-34
- 78 Arce, Germán M. (1978) El género en castellano —Lingüística Hispánica 1, p. 3-25
- 79 三好準之助 (1978) Sobre algunas funciones del sufijo diminutivo español —Lingüística Hispánica 1, p. 143-160
- 80 出口厚実 (1979) 「動詞呼応の類型(1)」—大阪外国語大学学報45, p. 1-18
- 81 上田博人 (1979) 「語形成における制限つきの規則性 —若干のスペイン語接尾辞に関して」—東京外国語大学論集29, p. 1-17
- 82 上田博人 (1979) 「派生語と辞書 —スペイン語接尾辞 -ble の意味と記述」—LEXICON 8, p. 16-26
- 83 出口厚実 (1980) 「動詞呼応の類型(2)」—大阪外国語大学学報48, p. 1-18
- 84 出口厚実 (1980) 「動詞呼応の類型(3)」—大阪外国語大学学報49, p. 11-30
- 85 Benavides, Juan Miguel (1981) Apuntes sobre morfología verbal —語学研究28, p. 1-14
- 86 出口厚実 (1981) 「動詞呼応の類型(4)」—大阪外国語大学学報54, p. 1-20
- 87 三好準之助 (1981) 「示小辞の基本的意味機能と文脈的意味分類の一基準」—HISPANICA 25, p. 31-52
- 88 原 誠 (1982) 「スペイン語形態論」—宮城昇教授還暦記念論文集, p. 81-100
- 89 伊藤文雄 (1982) 「スペイン語の示小接尾辞(-ito, -illo)について」—宮城昇教授還暦記念論文集, p. 119-136
- 90 小野 茂 (1982) 「西語動物名詞の性の決定に関して」—HISPANICA 26, p. 77-88

- 91 岡村 一 (1983)「ロマンセにおける縮小語について」—熊本商業大学論集30(1), p. 69-82
- 92 上田博人 (1983)「スペイン語語形成論(1)—記述単位の検討」—スペイン語学研究1, p. 79-95
- 93 上田博人 (1983)「スペイン語語形成論(2)—基体の設立における技術的な問題点」—HISPANICA 27, p. 87-100
- 94 酒井優子 (1984)「スペイン語洗礼名の省略形に見られる性の中性化」—SOPHIA LINGUISTICA 16, p. 99-108
- 95 酒井優子 (1984)「性決定の要因—植物語彙におけるラテン語からスペイン語への性転換」—HISPANICA 28, p. 81-99
- 96 高垣敏博 (1984)「現代スペイン語における複合語の構成」—京都産業大学論集13(3), p. 93-137
- 97 上田博人 (1984)「スペイン語語形成論(3)—交替形について」—東京外国語論集34, p. 51-66
- 98 上田博人 (1984)「不規則動詞の形態論」—HISPANICA 28, p. 128-143
- 99 坂東省次 (1985) Observaciones preliminares acerca del número 一京都外国語大学研究論叢26, p. 200-227
- 100 上田博人 (1985)「スペイン語語形成論(4)—文法性について(1)」—東京外国語大学論集35, p. 47-63
- 101 坂東省次 (1986) Delimitación de oposición y neutralización del número 一京都外国語大学研究論叢27, p. 285-309
- 102 酒井優子 (1986)「スペイン語の地名形容詞:-ense を伴う派生」—HISPANICA 30, p. 68-83
- 103 酒井優子 (1986)「スペイン語の地名形容詞:-eño を派生」—文京女子短期大学英語英文科紀要19, p. 145-154
- 104 坂東省次 (1987) Sobre los nombres objetos físicos compuestos 一京都外国語大学研究論叢30, p. 231-242
- 105 酒井優子 (1987)「スペイン語の地名形容詞の派生語尾に関する形態音韻的考察:-母音+no」—スペイン語学研究2, p. 45-64
- 106 酒井優子 (1987)「スペイン語の地名形容詞の派生語尾に関する形態音韻論的考察:-ero と-ario」—HISPANICA 31, p. 71-85
- 107 高垣敏博 (1988)「スペイン語における人名の愛称形について」—世界口承文芸研究9, p. 805-823
- 108 上田博人 (1988) Formas homonímicas en español —Lexicon 17, p. 22-33

*4 統語・意味(限定詞・名詞)

- 109 瓜谷良平 (1958)「イスパニア語冠詞の研究」—拓殖大学論集16, p. 9-26
- 110 瓜谷良平 (1960)「スペイン語冠詞論(1)—形態について」—拓殖大学論文集16, p. xx-xx
- 111 瓜谷良平 (1963)「スペイン語冠詞論(2)—実詞のスタイルとしての領域—」—拓殖大学論集 32/33, p. 301-313
- 112 Montero, José, G. (1968) EL ARTICULO —京都外国語大学研究論叢10, p. 95-106
- 113 Rodríguez, Justino (1972) EL DOMOSTRATIVO Y EL ARTICULO —京都外国語大学研究 論叢13, p. 90-100
- 114 佐藤玖美子 (1973)「スペイン語に於ける照応の定冠詞」—駒沢大学外国語学部紀要 2, p. 45-46
- 115 佐藤玖美子 (1973)「スペイン語の不定冠詞複数形について」—駒沢大学外国語学部論集 2, p. 103-117
- 116 佐藤玖美子 (1973)「身体の部分を表す名詞と冠詞について」—HISPANICA 17, p. 1-21
- 117 佐藤玖美子 (1974)「スペイン語に於ける関係文と冠詞について」—駒沢大学外国語学部紀要 3, p. 61-81
- 118 佐藤玖美子 (1975)「スペイン語に於ける名詞の指標としての冠詞について」—駒沢大学外国語学部紀要 4, p. 65-81
- 119 有吉俊二 (1977)「ロマンス諸語における所有形容詞と冠詞・指示形容詞と定冠詞との共起現象—スペイン語を中心として」—ロマンス語研究11, p. 1-13
- 120 高橋寛二 (1978)「定冠詞+QUE／構文(1)」—HISPANICA 22, p. 103-117
- 121 佐藤玖美子 (1979)「スペイン語の冠詞と主格について-1-」—駒沢大学外国語学部紀要 8, p. 119-138
- 122 高橋寛二 (1979)「定冠詞+QUE／構文(2)」—HISPANICA 23, P. 100-116
- 123 坂東省次 (1982)「現代スペイン語における名詞の数に関する一考察—対立と中和」—京都外国語大学研究論叢23, p. 160-184
- 124 佐藤玖美子 (1982)「Contexto と冠詞について—主格における考察—」—宮城昇教授還暦記念 論文集, p. 241-260
- 125 佐藤玖美子 (1982)「スペイン語における一般的に言及された名詞と冠詞について—主格における考察—」—駒沢大学外国語学部研究紀要10, p. 249-266
- 126 Arce, Germán (1983) Valor y uso del artículo en español —Lingüística Hispánica 6, p. 27-42
- 127 坂東省次 (1983)「スペイン語の集合名詞」—京都外国語大学研究論叢24, p. 203-219
- 128 江藤一郎 (1983)「スペイン語のいわゆる『定冠詞の代名詞的用法』について」—天理大学外国語教育 9, p. 46-60

- 129 上田博人（1984）*Nombres de acción en español* —*Lingüística Hispánica* 7, p. 135-150
- 130 高垣敏博（1987）「スペイン語の名詞化表現とその文法関係」—京都産業大学論集16（3）, p. 79-101
- *4 統語・意味（代名詞）
- 131 出口厚実（1972）「スペイン語人称目的格と代名詞化」—大阪外国語大学学報26, p. 1-18
- 132 出口厚実（1973）「スペイン語に主語代名詞削除は存在するか」—大阪外国語大学学報29, p. 3-12
- 133 Romero, Robert N.（1973）A note on Perlmutter's global constraint on Spanish clitics —言語研究63, p. 44-73
- 134 浦和幹男（1974）「*Leísmo, laísmo, loísmo* に関する一考察」—語学研究 3, p. 1-51
- 135 有吉俊二（1975）「現代スペイン語における弱形代名詞に関する一考察—変形文法におけるそれらの sources と status の位置付け—」—熊本短大論集51, p. 19-70
- 136 出口厚実（1975）「接語形代名詞の位置に関する統語的考察—スペイン語主語後置と接語形代名詞移動の関連について」—大阪外国語大学学報33, p. 65-79
- 137 宮本正美（1975）「スペイン語余剰代名詞構造」—関西外国語大学研究論集22, p. 225-261
- 138 宮本正美（1975）「使役動詞・感覚動詞構文に於けるスペイン語弱形人称代名詞の位置について（1）」—*HISPANICA* 19, p. 98-112
- 139 高橋寛二（1976）「*Usted* について」—アカデミア文学・語学編23, p. 233-256
- 140 宮本正美（1977）「スペイン語使役構文における 'Clitic Climbing' の条件（1）」—関西外国語大学学園創立30周年記念論文集25, p. 507-523
- 141 宮本正美（1978）Un esbozo de la transposición de clítico objeto en el sintagma verbal complejo con sujeto diferente en español —*Lingüística Hispánica* 1, p. 118-142
- 142 宮本正美（1978）「同一主語・複合動詞句におけるスペイン語弱形人称代名詞の移動について—1- 諸説の概観」—関西外国語大学研究論集29, p. 231-256
- 143 出口厚実（1979）「動詞の内部構造と付接辞嵌入について」—*Estudios Hispánicos* 6, p. 19-32
- 144 三好準之助（1979）*ÉSTE-ÉSE en una deixis especial* —*Lingüística Hispánica* 2, p. 107-122
- 145 山口忠志（1981）「スペイン語変形文法:CLITIC, PRO, 痕跡を中心として」—海外言語学情報 1, p. 275-297
- 146 堀田英夫（1982）「スペイン語代名詞の重複構文について」—宮城昇教授還暦記念論文集, p. 101-118
- 147 渡辺節子（1982）「*Leísmo* における斜格形式の揺れ—Carmen Laforet の場合を中心に—」—*HISPANICA* 26, p. 204-222
- 148 渡辺節子（1982）「対格・与格形式における揺れ—Luis Romero と Dolores Medio の場合—」—

宮城昇教授還暦記念論文集, p. 445-458

- 149 渡辺節子 (1983) 「代名詞連続と形式の揺れ」—HISPANICA 27, p. 101-116
- 150 堀田英夫 (1984) *La construcción redundante del pronombre español y el foco* —愛知県立大学
外国語学部紀要言語・文学編17(2), p. 271-284
- 151 出口厚実 (1985) *Proformas y variable lógica* —Lingüística Hispánica 8, p. 1-12
- 152 三好準之助 (1985) 「スペイン語の指示詞と人称」—HISPANICA 29, p. 17-30
- 153 山下好孝 (1985) *Sobre la construcción redundante (1): relación con los casos acusativo/dativo*
—Lingüística Hispánica 8, p. 103-122
- 154 山下好孝 (1986) *Sobre la construcción redundante (2): la diferencia dialectal* —Lingüística His-
pánica 9, p. 209-224
- 155 西田千代 (1988) *Approach to a lexical inflection and cliticization in Spanish* —SOPHIA LIN-
GUISTICA 23/24, p. 119-129
- 156 山下好孝 (1986) 「弱勢形代名詞重複構文について」—HISPANICA 30, p. 111-122
- 157 山口忠志 (1988) *Pronombres sujetos en español* —SOPHIA LINGUISTICA 23/24, p. 111-118

*4 統語・意味(前置詞)

- 158 町田俊昭 (1964) 「前置詞 a をともなう名詞・代名詞の格についての一考察—細江逸記博士の
学説にたいする批判—」—HISPANICA 9, p. 14-26
- 159 浦和幹男 (1966) 「前置詞 'DE' に関する一考察」—拓殖大学論集52/53, p. 439-472
- 160 浦和幹男 (1969) 「スペイン語前置詞 'A' に関する一考察(1)」—拓殖大学論集66, p. 135-
167
- 161 高橋覚二 (1972) 「前置詞 a と直接補語」—アカデミア文学・語学編19, p. 93-110
- 162 近藤 豊 (1975) 「前置詞 de に就いて—動詞語種との関係に立った予備調査」—天理大学学
報99, p. 29-45
- 163 近藤 豊 (1977) 「前置詞 de と分離・回復・知覚確認動詞について」—天理大学学報106,
p. 9-24
- 164 野田忠行 (1978) 「関係語論—前置詞 con と動詞の関係」—駒沢大学外国語部論集7, p. 99-
111
- 165 高橋覚二 (1978) 「スペイン語前置詞の活用(1)」—アカデミア文学・語学編25, p. 337-353
- 166 野田忠行 (1979) 「関係語論—前置詞 con と動詞の関係」—駒沢大学外国語部論集9, p. 103-
128
- 167 高橋覚二 (1979) *Oposición facultativa de 'a' y 'en'* —Lingüística Hispánica 2, p. 145-163
- 168 高橋覚二 (1979) 「スペイン語前置詞の活用(2)」—アカデミア文学・語学編26, p. 243-269
- 169 高橋覚二 (1979) 「スペイン語前置詞の活用(3)」—アカデミア文学・語学編27, p. 167-194

- 170 Bosque, Ignacio (1980) La preposición SIN —Lingüística Hispánica 3, p. 71-85
 - 171 高橋覚二 (1980) ¿Cambiar con 'de' y cambiar sin 'de', oposición facultativa? —VOZ DE IBEROAMERICA 9, p. 19-22
 - 172 高橋覚二 (1980) 「スペイン語前置詞の活用(4)」—アカデミア文学・語学編28, p. 163-191
 - 173 高橋覚二 (1980) 「スペイン語前置詞の活用(5)」—アカデミア文学・語学編29, p. 139-166
 - 174 高橋覚二 (1981) 「スペイン語前置詞の活用(6)」—アカデミア文学・語学編30, p. 195-222
 - 175 高橋覚二 (1981) 「スペイン語前置詞の活用(7)」—アカデミア文学・語学編31, p. 125-153
 - 176 野田忠行 (1982) 「関係語論—前置詞 de と動詞の関係」—駒沢大学外国語部論集15, p. 125-154
 - 177 高橋覚二 (1982) 「スペイン語前置詞の活用(8)」—アカデミア文学・語学編33, p. 47-82
 - 178 高橋覚二 (1983) 「スペイン語前置詞の活用(9)」—アカデミア文学・語学編34, p. 35-62
 - 179 高橋覚二 (1984) 「スペイン語前置詞の活用(10)」—アカデミア文学・語学編36, p. 41-66
 - 180 高橋覚二 (1985) 「スペイン語前置詞の活用(11)」—アカデミア文学・語学編38, p. 33-60
 - 181 高橋覚二 (1985) 「スペイン語前置詞の活用(12)」—アカデミア文学・語学編39, p. 19-40
 - 182 高橋覚二 (1986) 「スペイン語前置詞の活用(13)」—アカデミア文学・語学編40, p. 25-40
 - 183 野田忠行 (1987) 「関係語論—前置詞 por と動詞との関係」—駒沢大学外国語部論集26, p. 21-48
- *4 統語・意味(主語・語順)
- 184 原 誠 (1975) 「スペイン語に主語はあるか?」—HISPANICA 19, p. 85-97
 - 185 有吉俊二 (1977) 「現代スペイン語における Left dislocation, Topicalization およびその相互関係について(1)」—熊本商大論集51, p. 141-166
 - 186 有吉俊二 (1978) 「現代スペイン語における Left dislocation, Topicalization およびその相互関係について(2)」—熊本商大論集52, p. 117-147
 - 187 出口厚実 (1978) 「『主語性』の概念とスペイン語の不完全主語文」—HISPANICA 22, p. 15-29
 - 188 青木文夫 (1981) Markedness, phrase structure and stylistic rule —SOPHIA LINGUISTICA 8/9, p. 34-42
 - 189 三好準之助 (1981) 「スペイン語統語法研究のための主題・概念枠」—京都産業大学論集10(3), p. 266-298
 - 190 柴若佐枝 (1982) 「動詞との関係における主語の位置—現代スペイン語の語順を巡って」—宮城昇教授還暦記念論文集, p. 261-284
 - 191 寺崎英樹 (1982) 「スペイン語における主語の位置」—人文研究63, p. 95-111
 - 192 秋山紀一 (1983) Construcciones con complemento directo antepuesto al verbo en español —Lingüística Hispánica 6, p. 1-26

- 193 出口厚実 (1983) Aspectos cuantitativos del orden de palabras en el español contemporáneo —
Lingüística Hispánica 6, p. 55-66
- 194 原 誠 (1983) Algunos problemas del orden de colocación de los elementos oracionales en la
gramática productiva española —Lingüística Hispánica 6, p. 91-108
- 195 石崎優子 (1983) 『『談話の文法』によるスペイン語の構造と意味』—SOPHIA LINGUISTICA
11, p. 117-124
- 196 石崎優子 (1983) 「スペイン語の主観表現」—SOPHIA LINGUISTICA 13, p. 80-89
- 197 三好準之助 (1983) Un examen del Tema de la oración española —Lingüística Hispánica 6, p. 109-
121
- 198 山下好孝 (1983) ‘Tema’ en la oración española y su orden desde el punto de vista informativo
—Lingüística Hispánica 6, p. 123-143
- 199 寺崎英樹 (1984) 「スペイン語の語順と談話の原則」—HISPANICA 28, p. 114-127
- 200 青木文夫 (1985) The subject of infinitives in Spanish and the pro-drop parameter —SOPHIA
LINGUISTICA 18, p. 80-85
- 201 高橋寛二 (1985) 「SER の主語」—HISPANICA 29, p. 82-94
- 202 青木文夫 (1986) La incorporación léxica de INFL y el dominio de A-binding —SOPHIA LIN-
GUISTICA 20/21, p. 125-130
- 203 有吉俊二 (1986) On the position of the adversative conjunctive adjunct 《sin embargo》—Lin-
güística Hispánica 9, p. 9-18
- 204 山口忠志 (1986) El parámetro del sujeto nulo y la teoría del control —SOPHIA LINGUISTICA
20/21, p. 119-124
- 205 出口厚実 (1987) Sobre el orden de palabras en las oraciones copulativas —Lingüística Hispánica
10, p. 25-37
- 206 寺崎英樹 (1987) 「スペイン語の不定名詞句主語の語順について」—東京外国語大学論集37,
p. 27-39
- 207 江沢照美 (1988) El orden de palabras en las oraciones interrogativas del español —Lingüística
Hispánica 11, p. 21-36

*4 統語・意味(再帰文)

- 208 原 誠 (1960) 「スペイン語再帰動詞の諸用法の再検討」—東京外国語大学論集7, p. 15-
38
- 209 出口厚実 (1972) 「SE 受動文と再帰文のシンタクシス」—HISPANICA 16, p. 1-16
- 210 出口厚実 (1973) 「格文法とスペイン語再帰文の動作主格」—Estudios Hispánicos 3, p. 57-73
- 211 近藤 豊 (1973) 「イスパニア語の動詞—再帰動詞について」—天理大学学報25(1), p. 96-

110

- 212 有吉俊二（1974）「格文法による現代スペイン語再帰構文の一考察」—熊本短大論集49, p. 67-112
- 213 寺崎英樹（1974）「スペイン語のいわゆる非人称および受動の SE」—人文研究47, p. 17-34
- 214 出口厚実（1975）「SE はどこからくるか—スペイン語の再帰動詞構文について」—HISPANICA 19, p. 70-84
- 215 Mata, José（1975）LOS REFLEXIVOS—Intento de un nuevo acercamiento a sus usos, construcciones y sentidos —HISPANICA 19, p. 25-57
- 216 原 誠（1976）「スペイン語のいわゆる ‘se’ の諸用法の再検討から何を学ぶか？」—東京外国語大学論集26, p. 35-64
- 217 寺崎英樹（1976）「スペイン語非人称再帰文における ‘se’ の機能」—人文研究52, p. 167-184
- 218 坂東省次（1978）「強勢形再帰代名詞—歴史と統語構造に関する一考察」—京都外国語大学研究論叢19, p. 86-112
- 219 出口厚実（1978）Antipassive and Reflexive Passive in Spanish —Lingüística Hispánica 1, p. 54-74
- 220 出口厚実（1978）「スペイン語 se 統一仮説に向けて」—大阪外国語大学学報42, p. 1-14
- 221 出口厚実（1978）「関係文法とスペイン語の反受動文・再帰受動文」—Estudios Hispánicos 5, p. 19-32
- 222 橋川慶二（1978）Oraciones reflexivas en español —語学研究 1, p. 1-37
- 223 有吉俊二（1979）Reciprocal Constructions in Spanish —Lingüística Hispánica 2, p. 3-44
- 224 坂東省次（1979）「スペイン語再帰代名詞の環境範囲について」—京都外国語大学研究論叢20, p. 110-132
- 225 秋山紀一（1980）「スペイン語の非人称文」—玉川大学文学部論叢20, p. 231-247
- 226 三好準之助（1980）El SE del español actual: un estudio semántico —Lingüística Hispánica 3, p. 103-140
- 227 橋川慶二（1981）「再びスペイン語の再帰文について」—人文研究（神奈川大学人文学会）79, p. 1-25
- 228 高垣敏博（1981）「SE 非人称文再考」—HISPANICA 25, p. 93-111
- 229 秋山紀一（1982）Construcción pasiva refleja en español —Lingüística Hispánica 5, p. 1-11
- 230 有吉俊二（1982）On the Reflexive Verb ‘ocurrirse’—Lingüística Hispánica 5, p. 13-32
- 231 出口厚実（1982）On Reflexive Structures (2) —Lingüística Hispánica 5, p. 33-45
- 232 出口厚実（1982）「SE 構文の分類と SE の種類についての小考」—Estudios Hispánicos 8, p. 1-13
- 233 出口厚実（1982）「SE 構文の類別と SE の内包」—大阪外国語大学学報59, p. 1-16

- 234 出口厚実 (1982) 「SE 同音異義語説への疑問」—HISPANICA 26, p. 1-16
- 235 出口厚実 (1982) 「スペイン語—再帰形式をめぐる」—講座日本語10, p. 305-318
- 236 原 誠 (1982) Algunos problemas del pronombre reflexivo SE en la gramática productiva española —Lingüística Hispánica 5, p. 73-83
- 237 石岡誠三 (1982) Estudios de las lenguas iberorrománicas (I-1) —la clasificación de las partículas se española y la posibilidad de postular el rasgo [+Media] o no para la explicación de la partícula —和歌山工業高等専門学校研究紀要17, p. 70-75
- 238 三好準之助 (1982) Locatividad semántica del SE español —Lingüística Hispánica 5, p. 107-114
- 239 高橋寛二 (1982) Diferencias semánticas de las construcciones impersonales: 'la tercera persona del plural', 'se activo' y 'el pronombre indefinido uno' —Lingüística Hispánica 5, p. 115-140
- 240 寺崎英樹 (1982) 「SE 統一説と分裂説」—宮城昇教授還暦記念論文集, p. 335-349
- 241 出口厚実 (1983) 「再帰構造論(1): スペイン語再帰自動詞と se 受動の場合」—ロマンス語研究15/16, p. 65-74
- 242 出口厚実 (1983) 「再帰文のボタンと分類基準—再帰構造論(3)」—Estudios Hispánicos 9, p. 1-16
- 243 石岡誠三 (1983) Estudios de las lenguas iberorrománicas (I-2) —la clasificación de las partículas se española y la posibilidad de postular el rasgo [+Media] o no para la explicación de la partícula —和歌山工業高等専門学校研究紀要18, p. 90-95
- 244 宮本正美 (1984) 「スペイン語における身体再帰代名詞の有無」—関西外国語大学研究論集40, p. 193-223
- 245 三木一郎 (1987) 「スペイン語における SE を用いた受動表現」—ロマンス語研究20, p. 37-41
- 246 大森洋子 (1988) El uso reflexivo de los clíticos en español —SOPHIA LINGUISTICA 23/24, p. 139-147

*4 統語・意味(叙法)

- 247 山田善郎 (1959) 「接続法雑考」—Más y Menos 19, p. 9-16
- 248 Cabezas, A. (1968) 「イスパニア語の接続法」—京都外国語大学研究論叢10, p. 11-19
- 249 福嶋教隆 (1976) 「『イスパニア語接続法の研究—その本質的機能に関して—』要約」—STUDIUM 5, p. 67-71
- 250 福嶋教隆 (1976) 「イスパニア語接続法に関する諸説の検討」—外国語教育 3, p. 10-20
- 251 福嶋教隆 (1977) 「イスパニア語叙法と肯定・否定に関する一問題」—外国語・外国文学研究 1, p. 22-30
- 252 福嶋教隆 (1977) 「イスパニア語接続法の独立文中における用法について」—外国語教育 4, p. 30-40

- 253 伊藤太吾（1977）「スペイン語のいわゆる可能法について」—*Estudios Hispánicos* 4, p. 29-48
- 254 福嶋教隆（1978）*La aserción y el modo español* —*Lingüística Hispánica* 1, p. 75-94
- 255 福嶋教隆（1978）「イスパニア語接続法の感情動詞に導かれる用法について」—*外国語教育* 5, p. 25-37
- 256 福嶋教隆（1979）*La modalidad de las cláusulas sustantivas en español* —*Lingüística Hispánica* 2, p. 63-84
- 257 福嶋教隆（1979）「イスパニア語接続法の名詞節中における用法について（1）」—*外国語教育* 6, p. 45-46
- 258 三原健一（1978）*Frozenness and the Spanish Subjunctive Mood* —*NEBULAE* 5, p. 1-18
- 259 宮本正美（1979）「『価値判断』の無人称文におけるスペイン語の法選択について」—*関西外国語大学研究論文集* 31, p. 325-341
- 260 Arce, Germán M. (1980) *La motivación del subjuntivo* —*Lingüística Hispánica* 3, p. 3-40
- 261 出口厚実（1980）*Mood, Modal and Tense in Spanish* —*Lingüística Hispánica* 3, p. 87-101
- 262 出口厚実（1980）「ムードとモード：スペイン語における法性をめぐって」—*Estudios Hispánicos* 7, p. 59-71
- 263 有吉俊二（1981）*A Note on the Spanish Subjunctive: with Special Reference to its Use in the Subordinate Clause of Verbs of Belief in Diálogo de la Lengua* —*Lingüística Hispánica* 4, p. 3-30
- 264 出口厚実（1981）「接続法と陰否性—スペイン語叙法分析の一視点」—*大阪外国語大学学報* 52, p. 19-37
- 265 福嶋教隆（1981）*La modalidad de las oraciones independientes y de las cláusulas sustantivas en español* —*Lingüística Hispánica* 4, p. 63-84
- 266 福嶋教隆（1981）「イスパニア語接続法の名詞節中における用法について（2）」—*外国語教育* 7, p. 58-72
- 267 原 誠（1981）*La Posición de los Tres Modos en la Gramática Productiva Española* —*Lingüística Hispánica* 4, p. 85-95
- 268 三好準之助（1981）*Sobre el modo subjuntivo del español moderno* —*Lingüística Hispánica* 4, p. 97-117
- 269 三好準之助（1981）「現代スペイン語の法選択に関する一仮説」—*京都産業大学論集* 10（3）, p. 126-149
- 270 高垣敏博（1982）「従属標識としてのスペイン語接続法」—*京都産業大学論集* 11（4）, p. 84-110
- 271 出口厚実（1982）「スペイン語における叙法と法性」—*大阪外国語大学学報* 56, p. 1-16
- 272 福嶋教隆（1982）*Frecuencia del subjuntivo en el español actual* —*Lingüística Hispánica* 5, p. 47-72

- 273 福嶋教隆 (1982) 「イスパニア語接続法の統計的一考察」—神戸市外国語大学論叢33(2), p. 63-81
 - 274 福嶋教隆 (1982) 「イスパニア語接続法の独立文・名詞節中における用法について」—外国語教育 8, p. 17-25
 - 275 出口厚実 (1983) 「スペイン語叙法論における否定の役割」—大阪外国語大学62, p. 1-16
 - 276 出口厚実 (1983) 「節の統語型と叙法」—HISPANICA 27, p. 20-36
 - 277 石崎優子 (1984) 「スペイン語の接続法—その使用基準」—SOPHIA LINGUISTICA 16, p. 40-47
 - 278 石崎優子 (1985) 「スペイン語の接続法の時制」—SOPHIA LINGUISTICA 18, p. 72-79
 - 279 深沢光代 (1986) El subjuntivo español y la presuposición —SOPHIA LINGUISTICA 20/21, p. 57-64
 - 280 深沢光代 (1987) 「スペイン語接続法における主題性の一側面—主として形容詞節の場合—」—清泉女子大学紀要35, p. 11-18
 - 281 星井道夫 (1987) Significado del modo en los complementos de 'creer' —麗沢大学紀要45, p. 23-35
- *4 統語・意味 (時制・相)
- 282 町田俊昭 (1957) 「Aspecto—本質と応用理論としての形態—」—HISPANICA 2, p. 1-26
 - 283 中岡省治 (1973) 「Poesia Narrativa における直説法不定過去と不完了過去についての一考察」—大阪外国語大学29, p. 79-98
 - 284 西川 喬 (1973) 「受動態に於けるアスペクト」—HISPANICA 17, p. 22-36
 - 285 西川 喬 (1974) 「現代スペイン語における直説法現在の用法」—神戸市外国語大学論叢 25(2), p. 35-51
 - 286 西川 喬 (1975) 「現代スペイン語における直説法完了過去について」—神戸市外国語大学論叢26(2), p. 63-82
 - 287 寺崎英樹 (1975) 「完了過去は完了的な過去か—スペイン語の完了過去と不定過去—」—人文研究49, p. 87-105
 - 288 前田幸男 (1976) 「スペイン語単純形動詞のアスペクト」—亜細亜大学教養部紀要14, p. 102-118
 - 289 西川 喬 (1976) 「現代スペイン語における直説法未来について」—神戸市外国語大学論叢 27(5), p. 101-120
 - 290 出口厚実 (1977) 「基底時制と表層時制」—Estudios Hispánicos 4, p. 15-28
 - 291 前田幸男 (1977) 「スペイン語受動態のアスペクト」—亜細亜大学教養部紀要16, p. 82-98
 - 292 前田幸男 (1977) 「スペイン語複合形容詞アスペクト」—亜細亜大学教養部紀要15, p. 124-140

- 293 福嶋教隆（1978）「イスパニア語アспект小史」—外国語・外国文学研究 2, p. 45-54
- 294 前田幸男（1978）「スペイン語動詞のテンスとアспект VS 付加物としてのタイム」—亜細亜大学教養部紀要17, p. 43-60
- 295 原 誠（1979）「スペイン語における時制とアспект」—アジア・アフリカ文法研究 8, p. 83-103
- 296 中岡省治（1980）「接続法過去 -se 形と -ra 形についての一考察」—Estudios Hispánicos 7, p. 43-58
- 297 西川 喬（1980）「スペイン語における時制機能論（1）」—神戸市外国語大学論叢31（2）, p. 69-81
- 298 山田善郎（1980）「イスパニア語動詞における直説法時制の二元性について」—Estudios Hispánicos 7, p. 23-42
- 299 西川 喬（1981）「スペイン語における時制機能論（2）」—神戸市外国語大学論叢32（3）, p. 35-51
- 300 中山直次（1982）「スペイン語アспект考—『時』を切る—」—宮城昇教授還暦記念論文集, p. 211-240
- 301 上田博人（1982）「西語動詞活用の7基本形」—宮城昇教授還暦記念論文集, p. 377-392
- 302 Arce, Germán M. (1983) LAS FORMAS EN -RA Y -SE DEL IMPERFECTO DE SUBJUNTIVO —HISPANICA 27, p. 1-19
- 303 原 誠（1983）「スペイン語における複合過去」—ロマンス語研究15/16, p. 95-105
- 304 高橋寛二（1984）Expresiones de futuro en español —Lingüística Hispánica 7, p. 113-134
- 305 西川 喬（1985）Compuestos de verbo más sustantivo en español —Lingüística Hispánica 8, p. 43-68
- 306 出口厚実（1986）Un nuevo modo 'presuntivo' en sustitución de los tiempos futuro y condicional —Lingüística Hispánica 9, p. 19-34
- 307 出口厚実（1986）「スペイン語に‘未来’はあるか？ 同格化された法・時制概念をめざして」—Estudios Hispánicos 12, p. 1-16
- 308 三好準之助（1986）La forma verbal CANTABA y su principio funcional —Lingüística Hispánica 9, p. 95-114
- 309 三好準之助（1987）「現代スペイン語の動詞形式 CANTABA」—京都産業大学国際言語科学研究会所報 8, p. 113-150
- 310 山村ひとみ（1987）「主動詞の意味と時制の照応」—HISPANICA 31, p. 158-175
- 311 佐々木克美（1988）「メキシコスペイン語の habla popular における未来時称について」—国際武道大学研究紀要 4, p. 113-120
- 312 上田博人（1988）「スペイン語の未来形の意味について」—東京外国語大学論集38, p. 59-72

- 313 Vázquez Solano, Claudio Antonio (1988) El castellano como lengua extranjera — hacia una delimitación del uso del Pretérito Imperfecto y del Pretérito Perfecto Simple del modo indicativo. — 関西外国語大学研究論集48, p. 49-59

*4 統語・意味(動詞)

- 314 原 誠 (1958) 「スペイン語の間接命令」 — 耕文 8, p. 1-11
- 315 石崎優子 (1975) 「スペイン語における受身の意味構造についての一考察」 — SOPHIA LINGUISTICA 1, p. 71-81
- 316 宮本正美 (1975) 「‘La Colmena’ に於けるスペイン語命令諸形式(1)」 — 関西外国語大学研究論集23, p. 283-315
- 317 高橋寛二 (1975) Sobre la construcción ‘ir a+infinitivo’ — HISPANICA 19, p. 58-69
- 318 石崎優子 (1976) 「スペイン語において能動文から受動文への変化が意味するもの」 — SOPHIA LINGUISTICA 2, p. 32-40
- 319 宮本正美 (1976) 「‘La Colmena’ に於けるスペイン語命令諸形式(2)」 — 関西外国語大学研究論集24, p. 191-205
- 320 福嶋教隆 (1977) Andrés Bello and the performative analysis — NEBULAE 3, p. 200-202
- 321 中岡省治 (1977) 「進行形『estar+gerundio』に関する考察(1)」 — Estudios Hispánicos 4, p. 1-14
- 322 高橋寛二 (1977) 「ACABAR DE+INFINITIVO について」 — アカデミア文学・語学編24, p. 191-215
- 323 中岡省治 (1978) Notas sobre las perífrasis en gerundio de sentido durativo — Lingüística Hispánica 1, p. 161-191
- 324 西川 喬 (1978) En torno a las limitaciones de la voz pasiva con el verbo auxiliar ‘ser’ — una solución desde el punto de vista del aspecto — Lingüística Hispánica 1, p. 192-225
- 325 出口厚実 (1979) 「過去分詞は何と一致するか? — スペイン語における能格構文 —」 — Más y Menos 2, p. 4-13
- 326 近藤 豊 (1979) 「イスパニア語の‘変化動詞’についての予備的調査報告 — Hacerse+名詞・形容詞・副詞」 — 天理大学学報121, p. 43-59
- 327 近藤 豊 (1979) 「イスパニア語の動詞 volverse による変化表現について(前)」 — 外国語教育 6, p. 57-66
- 328 有吉俊二 (1980) Definite Nouns in haber Sentences — Lingüística Hispánica 3, p. 41-69
- 329 近藤 豊 (1980) 「イスパニア語の‘変化動詞’についての予備的調査報告 — Ponerse+名詞・形容詞・副詞」 — 天理大学学報123, p. 125-147
- 330 近藤 豊 (1981) 「イスパニア語の動詞 volverse による変化表現について(後)」 — 外国語教育

- 7, p. 49-57
- 331 近藤 豊 (1981)「変化動詞 *convertir*(se) の意味と用法 ―くもの> 主体表現をめぐる―」天理大学学報129, p. 113-128
- 332 鈴木 寛 (1981)「新稿スペイン語の *ser* と *estar*」―愛知県立大学外国語学部紀要言語・文学編14, p. 1-22
- 333 秋山紀一 (1982)「スペイン語における『知覚感覚動詞』の統語構造について」―宮城昇教授還暦記念論文集, p. 21-40
- 334 塩田洋子 (1982)「いわゆる『無人称文』について」―宮城昇教授還暦記念論文集, p. 285-302
- 335 當作靖彦 (1982)「スペイン語における節結合と反転述語の相互関係について」―宮城昇教授還暦記念論文集, p. 351-375
- 336 秋山紀一 (1983)「SER 受身文について(1)―その動詞句的側面を中心として」―スペイン語学研究1, p. 21-38
- 337 浅香武和 (1983) *En torno a la denominación del infinitivo personal* ―*Lingüística Hispánica* 6, p. 43-53
- 338 福寫教隆 (1983) *Oraciones intransitivas acompañadas de dativo ético en español* (1) ―*Lingüística Hispánica* 6, p. 67-89
- 339 福寫教隆 (1983)「イスパニア語における関心の与格を伴う自動詞文について(上)」―神戸市外国語大学論叢34(2), p. 23-40
- 340 福寫教隆 (1984) *Oraciones intransitivas acompañadas de dativo ético en español* (2) ―*Lingüística Hispánica* 7, p. 23-54
- 341 福寫教隆 (1984)「イスパニア語における関心の与格を伴う自動詞文について(下)」―神戸市外国語大学論叢35(1), p. 75-98
- 342 三好準之助 (1984)「現代スペイン語の受動文」―京都産業大学論集13(3), p. 59-92
- 343 Navarro, Juan J. (1984) ¿El verbo 'haber' carece siempre de sujeto? ―拓殖大学論集151, p. 35-50
- 344 西川 喬 (1985)「スペイン語における SER 受動態使用制限について」―ロマンス語研究18, p. 37-45
- 345 高垣敏博 (1985) *Los sustantivos verbales y la transitividad* ―*Lingüística Hispánica* 8, p. 69-82
- 346 高橋節子 (1985)「感情動詞と言語の4つのレベル」―*HISPANICA* 29, p. 95-112
- 347 江藤一郎 (1986)「スペイン語の存在を表す動詞 'hay' と 'estar' について」―天理大学学報152, p. 21-39
- 348 福寫教隆 (1986)「イスパニア語の使役文, 知覚文と文法関係」―外国学研究16, p. 61-80
- 349 高垣敏博 (1986) *Sobre el infinitivo nominal del tipo: se oía el repicar de las campanas* ―*Lingüística Hispánica* 9, p. 179-190

- 350 江沢照美 (1987) El verbo parecer y su construcción —Lingüística Hispánica 10, p. 39-57
- 351 小池和良 (1987) 「間接補語として機能する無生名詞を導く動詞」 —スペイン語学研究 2, p. 25-44
- 352 中岡省治 (1987) 「Perifrasis en gerundio にみられる助動詞の特徴について」 —Estudios Hispánicos 13, p. 25-49
- 353 高橋節子 (1987) 「スペイン語における使役動詞と格形式」 —白鷗大学論集 1 (1), p. 99-118
- 354 高橋節子 (1987) 「格形式と文法機能」 —HISPANICA 31, p. 131-146
- 355 利光和彦 (1987) 「Gerundio (現在分詞) の特殊構文について (その1)」 愛知県立大学外国語学部紀要言語・文学編19, p. 235-246
- 356 山下好孝 (1987) 「Hay, estar, ser を使った存在文について」 —HISPANICA 31, p. 176-190
- 357 原 誠 (1988) 「Navas Ruiz, 1963 を読んで」 —スペイン語学研究 3, p. 13-34
- 358 石崎優子 (1988) 「スペイン語における能格表現」 —SOPHIA LINGUISTICA 23/24, p. 131-138
- 359 小池和良 (1988) Verbos preposicionales españoles y su alcance —スペイン語学研究 3, p. 49-62
- 360 寺崎英樹 (1988) 「SER/ESTAR の意味と機能」 —スペイン語学研究 3, p. 85-102
- 361 上田博人 (1988) 「スペイン語の繫辞状動詞の分類」 —スペイン語学研究 3, p. 103-118

*4 統語・意味(その他)

- 362 有吉俊二 (1975) 「現代スペイン語における所有形容詞および所有代名詞について」 —熊本短大論集50, p. 79-116
- 363 福嶋教隆 (1975) 「イスパニア語の条件文に関する一考察」 —STUDIUM 4, p. 81-90
- 364 前田幸男 (1978) 「百年の孤独の文章構造について」 —亜細亜大学教養部紀要18, p. 184-186
- 365 寺崎英樹 (1978) 「スペイン語の基本文型」 —人文研究56, p. 112-129
- 366 出口厚実 (1979) The Syntax of Direct Objects in Spanish —Lingüística Hispánica 2, p. 45-62
- 367 宮本博司 (1980) 「スペイン語における虚辞の no について —『おそれ』の意を含む文の場合—」 —語学研究24, p. 85-90
- 368 有吉俊二 (1981) Las tres características sintácticas de El Jarama por Sánchez Ferlosio —HISPANICA 25, p. 53-69
- 369 出口厚実 (1981) Notas sobre la negación —Lingüística Hispánica 4, p. 47-62
- 370 福嶋教隆 (1981) 「イスパニア語の文と節に関する一考察」 —外国語・外国文学研究 5, p. 81-88
- 371 石岡誠三 (1981) 「現代スペイン語に於ける補文化子, que, el que, el hecho de que の分布に関する覚書」 —和歌山工業高等専門学校研究紀要16, p. 64-69

- 372 山口忠志（1981）*Notas sobre las oraciones de relativo sin antecedentes* —*Sapientia* 15, p. 123-134
- 373 青木文夫（1982）「スペイン語文法 —Rivero の研究を中心に—」—*海外言語学情報* 1, p. 299-307
- 374 片岡喜代子（1982）「スペイン語の副詞が修飾するもの」—*宮城昇教授還暦記念論文集*, p. 155-173
- 375 三好準之助（1982）「現代スペイン語の無人称文」—*HISPANICA* 26, p. 47-62
- 376 高橋覚二（1982）「関係詞と接続詞:como の場合」—*アカデミア文学・語学編*32, p. 69-96
- 377 保川亜矢子（1982）「スペイン語の関係代名詞に関する一考察」—*宮城昇教授還暦記念論文集*, p. 411-430
- 378 香野早苗（1983）「スペイン語文体論」—*海外言語学情報* 2, p. 206-213
- 379 山口忠志（1983）「スペイン語統語論」—*海外言語学情報* 2, p. 190-198
- 380 中岡省治（1984）「副詞的従属節の位置に関する一考察 —理由節を導く porque と como の機能を中心として」—*大阪外国語大学学報*64, p. 229-250
- 381 江藤一郎（1985）「スペイン語の現在分詞の用法について」—*外国語教育*11, p. 25-38
- 382 深沢光代（1985）「スペイン語配分の等位接続に関する一考察」—*清泉女子大学紀要*33, p. 14-24
- 383 福嶋教隆（1985）*On the Spanish tough* —*Proceedings of the Ninth Annual Meeting of the Kansai Linguistic Society*, p. 1-8
- 384 福嶋教隆（1985）*La construcción tough en español* (1) —*Lingüística Hispánica* 8, p. 13-42
- 385 酒井優子・大森洋子（1985）「スペイン語意味論」—*海外言語学情報* 3, p. 209-217
- 386 山口忠志（1985）「スペイン語統語論」—*海外言語学情報* 3, p. 197-208
- 387 青木文夫（1986）*La incorporación léxica de INFL y el dominio de A-Binding* —*SOPHIA LINGUISTICA* 20/21, p. 125-130
- 388 坂東省次（1986）*UNA CONSIDERACIÓN SEMÁNTICA SOBRE LA CATEGORÍA DE NÚMERO EN ESPAÑOL* (1) —*HISPANICA* 30, p. 1-17
- 389 深沢光代（1986）「porque による原因の従位接続」—*清泉女子大学紀要*34, p. 49-61
- 390 福嶋教隆（1986）*Las relaciones gramaticales y su estudio en las oraciones causativas y de percepción en español* (1) —*Lingüística Hispánica* 9, p. 35-46
- 391 福嶋教隆（1986）「イスパニア語の tough 構文について(上)」—*神戸市外国語大学論叢*36(6), p. 75-103
- 392 宮本博司（1986）「スペイン語における虚辞の no について(2) —hasta の後で用いられる場合」—*語学研究*45, p. 61-68
- 393 中岡省治（1986）*Ensayo sobre el uso y diferenciación de las conjunciones causales españoles:*

- 《puesto que》, 《ya que》, 《pues》 y 《que》 —Lingüística Hispánica 9, p. 115-154
- 394 福嶋教隆 (1987) Las relaciones gramaticales y su estudio en las oraciones causativas y de percepción en español (2) —Lingüística Hispánica 10, p. 59-76
- 395 酒井優子・大森洋子 (1987) 「スペイン語意味論・語用論」—海外言語学情報 4, p. 236-243
- 396 上田博人 (1987) 「接尾辞 -mente のつく副詞と con+ 抽象名詞」—スペイン語学研究 2, p. 81-86
- 397 山口忠志・加藤ナツ子 (1987) 「スペイン語統語論」—海外言語学情報 4, p. 224-235
- 398 浅香武和 (1988) 「スペイン語の自由間接話法」—スペイン語学研究 3, p. 1-12
- 399 深沢光代 (1988) 「スペイン語選択等位接続の意味—スペイン語文法における意味解釈の歴史—」—清泉女子大学紀要36, p. 39-49
- 400 福嶋教隆 (1988) La construcción tough en español (2) —Lingüística Hispánica 11, p. 37-59
- 401 福嶋教隆 (1988) 「イスパニア語の tough 構文について(中)」—神戸市外国語大学論叢39(4), p. 61-84
- 402 小池和良 (1988) 「述語補語の範囲」—HISPANICA 32, p. 74-89
- 403 酒井優子 (1988) 「スペイン語の全体疑問文に SI か NO で答える場合の是認と否認」—スペイン語学研究 3, p. 65-84
- 404 酒井優子 (1988) 「スペイン語のいわゆる‘付加疑問’とその答えのつながりについて」—HISPANICA 32, p. 121-133
- 405 酒井優子 (1988) La función identificadora en los interrogativos qué y quién —Lingüística Hispánica 11, p. 87-108

〔以下継続〕